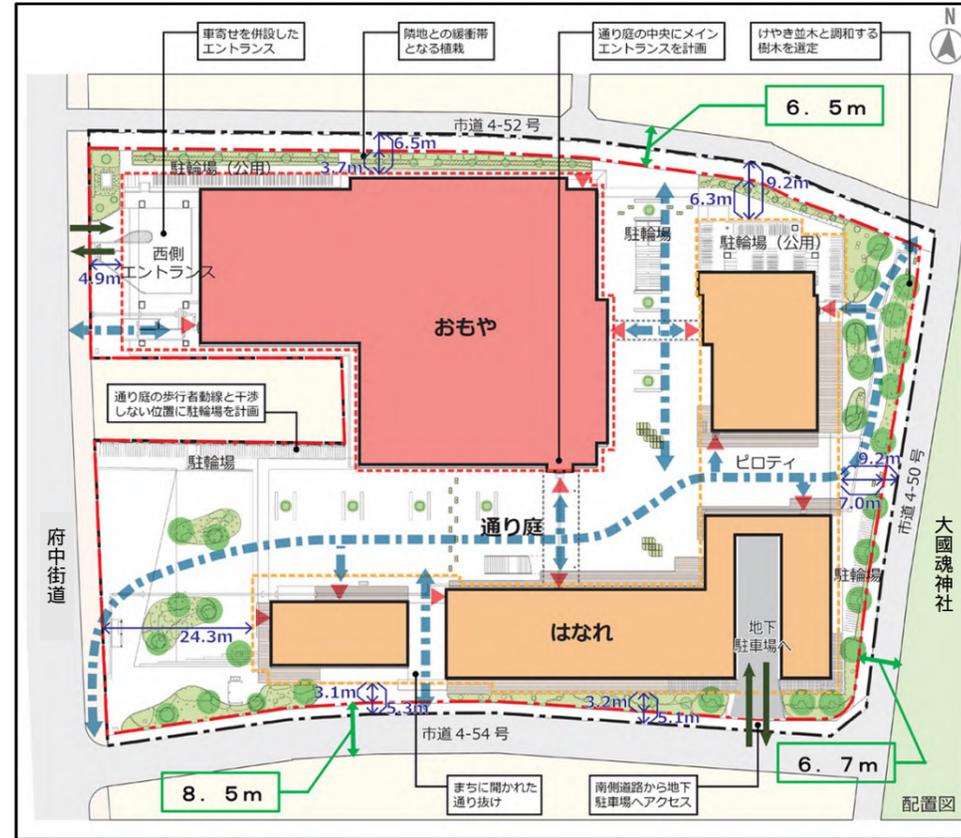


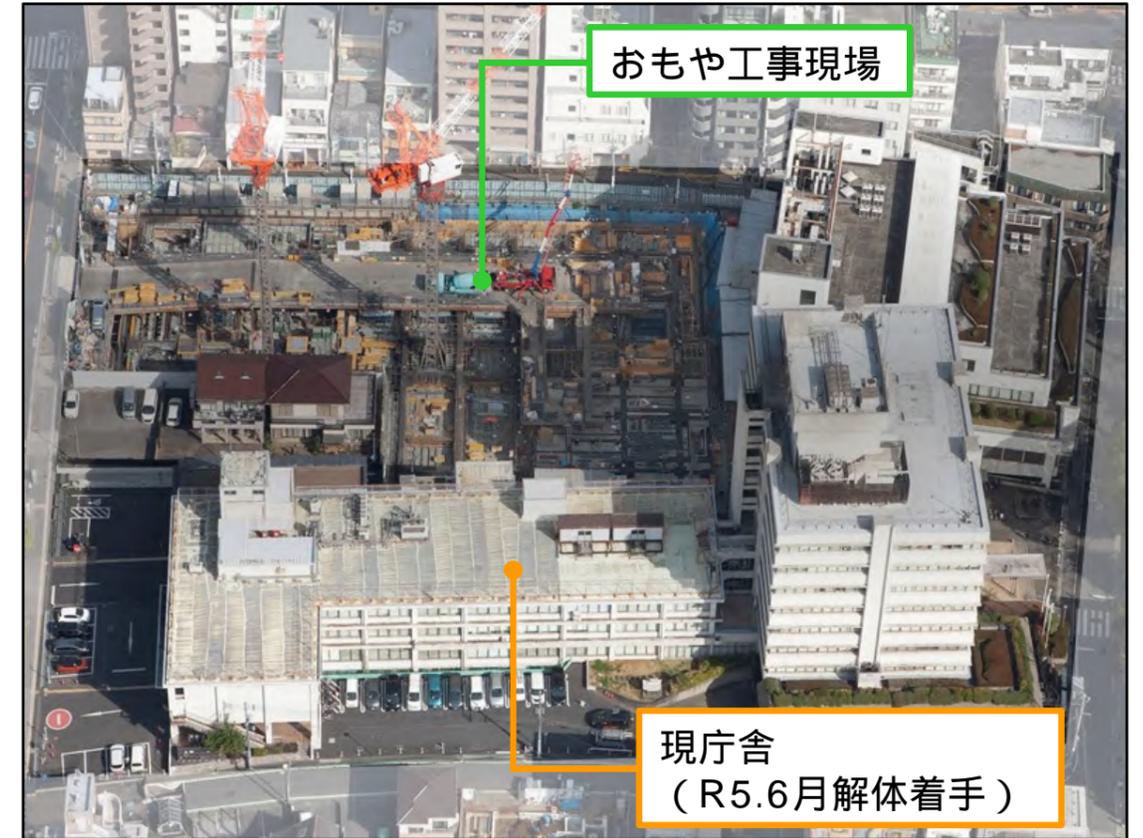
【建物概要】

敷地面積	11,064.85㎡
用途	事務所、図書館、店舗、駐車場
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造(免震構造)
階数	地上6階 地下1階
最高高さ	30.14m
延べ面積	32,362.67㎡
建築面積	6,349.29㎡

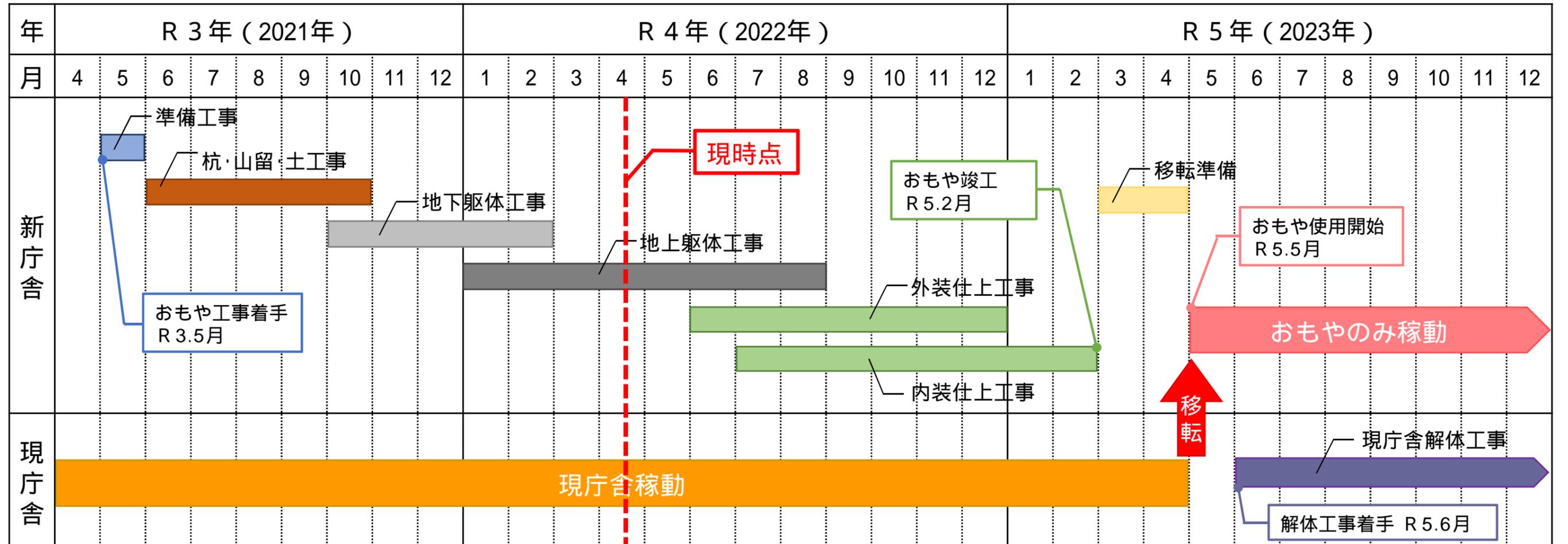
【配置計画】



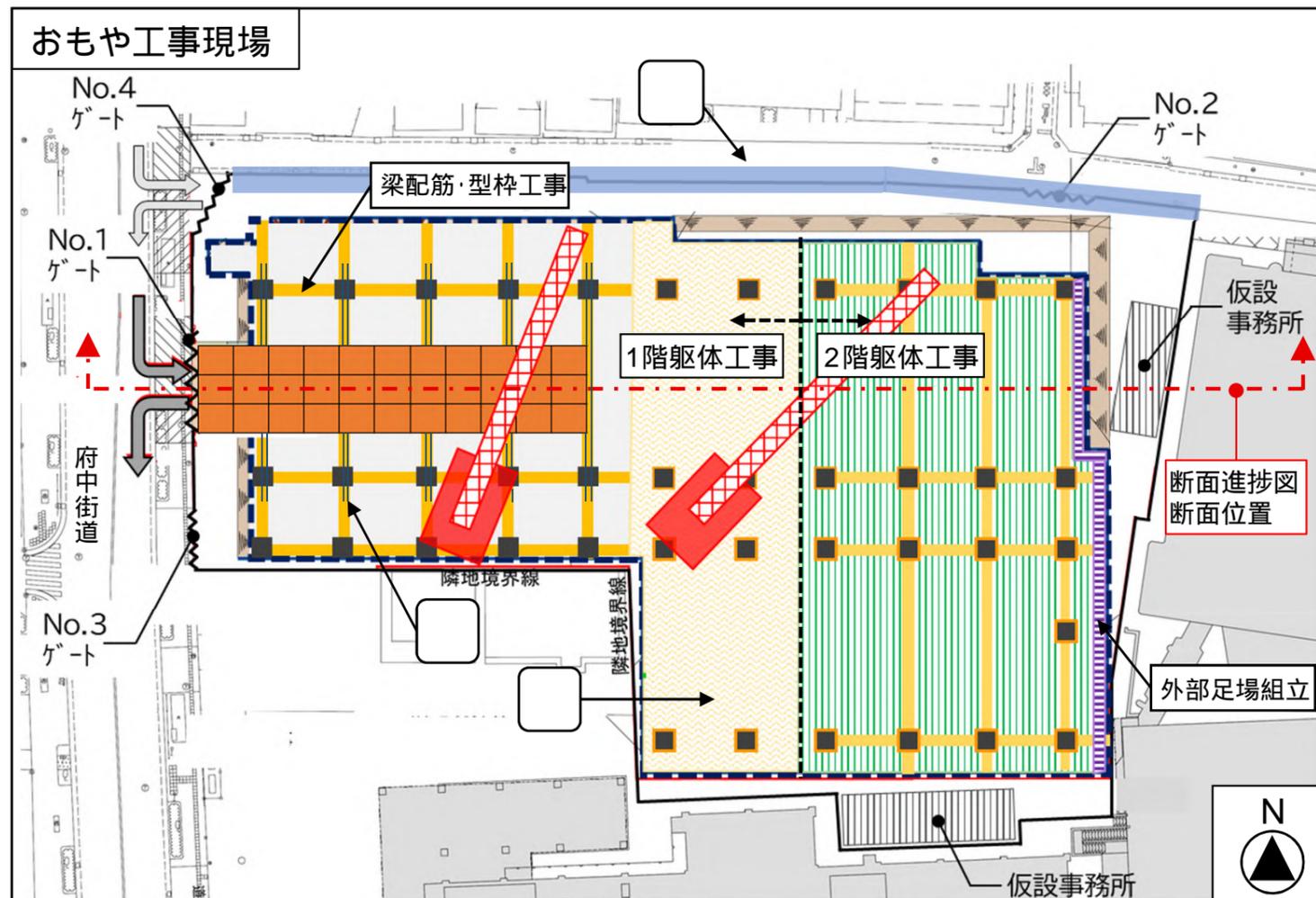
【航空写真 (R4.3月18日時点)】



【工程表】



【平面進捗図】



【1階躯体】コンクリート打設工事



- ・1日で約300m³ (小学校プールで約1杯分) のコンクリートを作業員20名で打設します。
- ・作業員は、「ホース」を移動させながら、必要な箇所にコンクリートを流し込み、「バイブレータ」で振動を加えながら、型枠の隅々までコンクリートを充填させます。バイブレータは、1秒間に200回以上振動します。

防護管取付工事



- ・現場周辺の電線に巻かれている黄色い管は「防護管」と呼ばれ、電線付近でクレーンなどを用いて作業する場合に、電線との接触を避けるために取り付けます。
- ・高圧の電流が流れている電線を防護管により保護することで、作業員の感電や停電を防ぎます。

【各階梁】プレストレストコンクリート工事



- ・一部の梁は、柱の数を少なくし、長いスパンを確保するために、プレストレストコンクリート造を採用しています。梁の配筋内に、「シース管」というパイプ状の配管を設置し、その配管内に「PC鋼材」を挿入します。



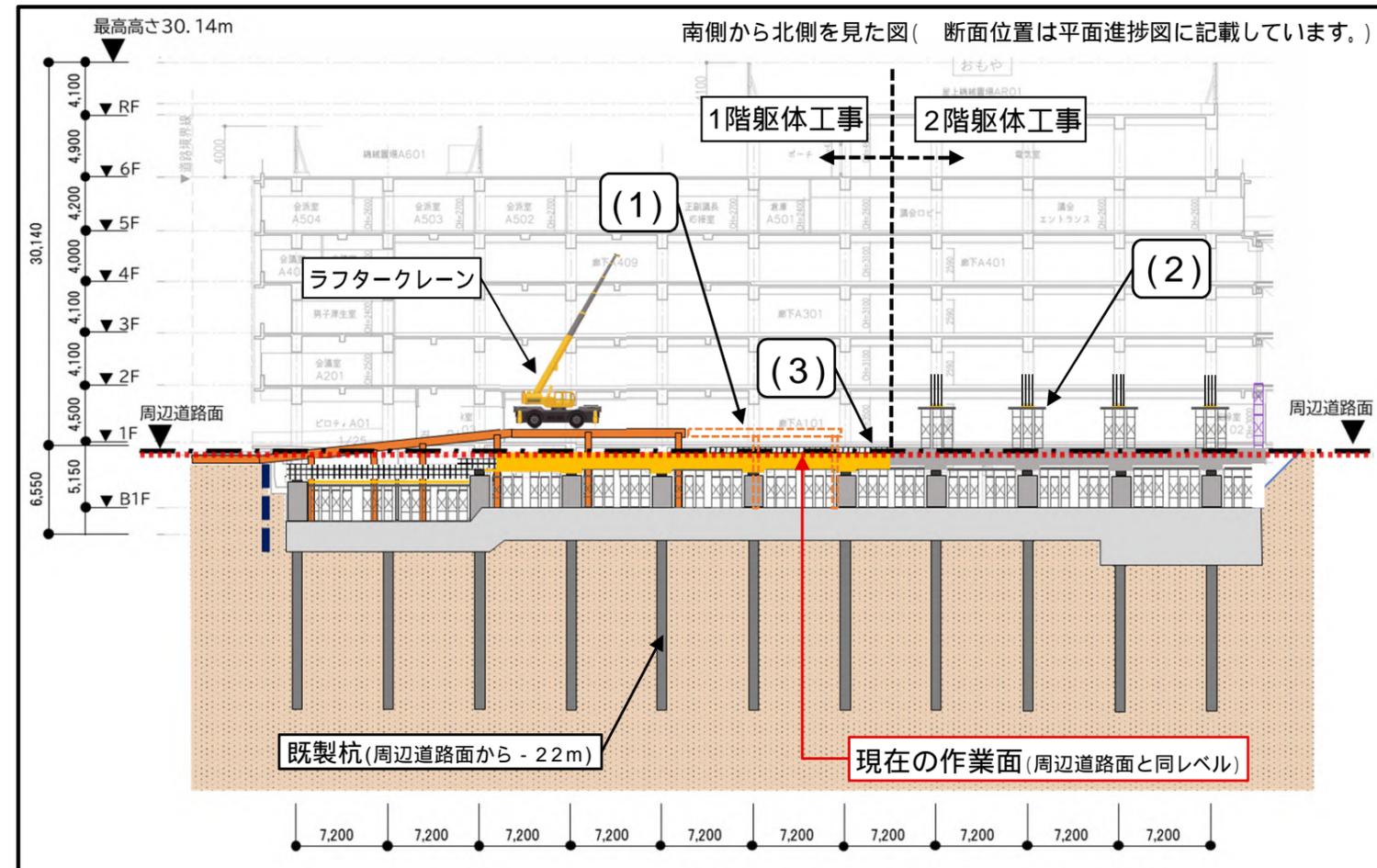
- ・「PC鋼材」は、長いもので約40mあり、重さは300kg以上あります。梁内に設置したPC鋼材を、コンクリート打設後に、特殊な装置によって約200tの力で引っ張ることで、梁の強度を高めます。

タワークレーンの紹介

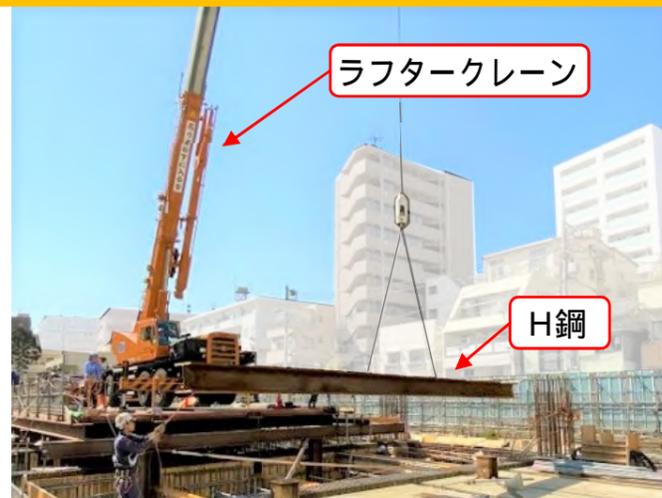


- ・タワークレーンにはニックネームをつけていて、本市に拠点を置くラグビーチームを参考に名づけました。
- ・タワークレーンの先端には、「航空障害灯」を設置しています。夜間における航空機の航行の安全を確保するという目的があります。

【断面進捗図】

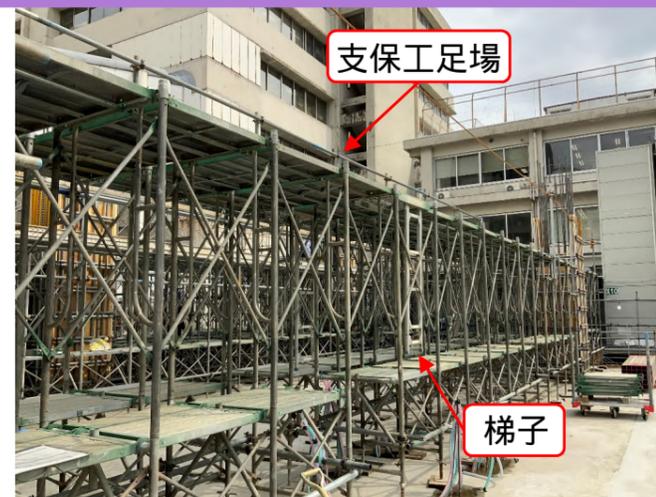


(1) 構台解体工事



- ・地上部分の躯体工事を進めていくため、構台を順次撤去しています。長さ約10mの「H鋼」を1本ずつ解体します。
- ・構台の解体に伴い、新たに敷地北側を資材の搬入経路とするため、仮囲いやゲートの位置等を変更します。(平面進捗図参照)

(2) 【2階躯体】支保工足場組立工事



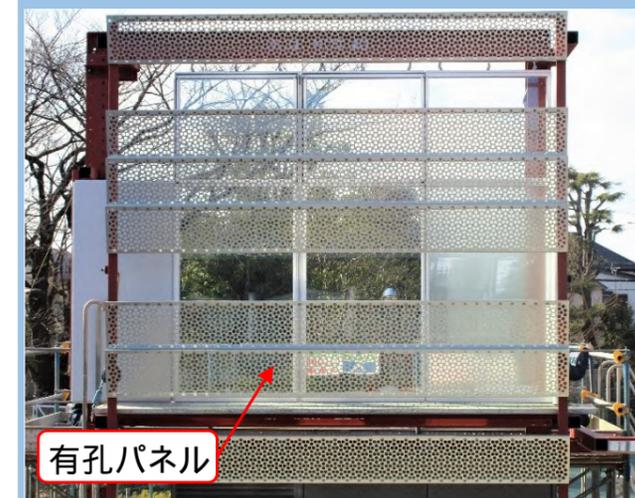
- ・2階の床の躯体工事を進めるにあたり、1階の床から2階の床までの高さが4.5mと高いため、1階の床から「支保工足場」という仮設の足場を組み立てます。
- ・作業員は、設置した「梯子」を用いて足場の上へのぼり作業を行います。

(3) 【1階床】鉄筋工事



- ・1階の床の配筋は、直径13mmの鉄筋を15cm間隔で交差し、上下2段で構成しています。
- ・鉄筋の下には、木材とセメントを混ぜ合わせて作られた「木毛セメント板」を敷き詰めています。地下駐車場の天井の仕上げ材となるもので、防火性や断熱性、遮音性に優れた建築材料です。

外装材の見本品作成



- ・新庁舎の外装材の一部を再現した見本品を作成しました。
- ・「有孔パネル」やアルミサッシ等の外装材の色味や質感、各部材の接合状況を確認しています。「有孔パネル」の孔は、10円玉ほどの大きさで、規則的に開けられています。

💡 建設現場豆知識



- ・工事現場で使用しているヘルメットには、ラインが表示されていて、その人の役職や立場が分かるようになっています。
- ・ラインの本数は、3本まであります。ラインがある人は、現場施工に関する経験が豊富で、各作業員のリーダーや、現場の管理者としての役割を担っています。